

製品・サービス動向-国内

■VTV ジャパン：アバイア社の小中規模会議室向け 1080p60 対応テレビ会議システムの販売開始

(11月25日)

VTV ジャパン株式会社 (<https://www.vtv.co.jp/>) (東京都千代田区) は、アバイア社の小中規模会議室向けテレビ会議端末「SCOPIA XT4300」を11月25日より販売開始する。

XT4300 は、1080p の高画質な映像と 60 フレームの滑らかな動きを実現するテレビ会議システム。最新プロトコル H.264/SVC に対応している。また、製品にパッケージされる専用カメラは光学 5 倍とデジタル 3 倍のズームに対応し、10 名程度までの利用に対応している。さらに、従来機の「SCOPIA XT4200」では対応できなかった内蔵 MCU 機能 (最大 4 地点の多地点会議) がオプションで用意されている。

そのほか、ワイヤレスプレゼンテーション機能や、デュアルディスプレイ表示 (オプション) にも対応している。

VTV ジャパンによると、テレビ会議端末の買い替えや 4 地点以内での導入、小中規模拠点への増設などを検討している方に最適なモデルという。

今回の販売開始に併せて、同社では東京と大阪のデモルームに SCOPIA XT4300 の映像や音声を無料で体感できる環境を構築し、SCOPIA XT4300 と他社製品の比較デモンストレーションが見られるようになっている。加えて、保守サービスについても自社のサポートスタッフが対応し、導入後も安心して使用できるサポートを提供するとしている。

■ポリコムジャパン：グループコラボレーション向けスマートハブ「Polycom RealPresence Trio」発売

(11月17日)

ポリコムジャパン株式会社 (<http://www.polycom.co.jp/>) (東京都新宿区) は、グループコラボレーション向けスマートハブ「Polycom RealPresence Trio」を日本市場向けに販売開始する。

この発表は、米ポリコム社のプレスリリースにて発表 (2015年10月14日) されたソリューションのひとつを日本市場に展開するといった内容。



Polycom RealPresence Trio(ポリコムジャパン)

Polycom RealPresence Trio 利用シーン例
(ポリコムジャパン)

Polycom RealPresence Trio は、ポリコムの象徴的な三角形の音声会議システムをどのようなチーム環境/

会議スペースにでも適した、音声・ビデオ会議・コンテンツ共有まで可能なソリューションに進化させたスマートハブ。「Microsoft Lync」「Skype for Business」「Broadsoft」など複数の UC プラットフォームと緊密に統合できる。

シンプルな Web カメラと、本製品にコンテンツ共有とビデオ会議機能を拡張する「Polycom RealPresence Visual+」を追加すれば Polycom RealPresence Trio は完全なビジュアルコラボレーションソリューションになる、としている。

また、カレンダー機能との統合により、ワンタッチで会議をすばやく開始でき、最先端の音声パフォーマンスにより、業界トップのクリアな音声と立地な接続を実現している。加えて、参加者はモバイルデバイスやノート PC を簡単に本製品にペアリングし、HD 品質でコンテンツを共有できるようになっている。

販売は、ポリコム認定販売代理店を通じて、11月17日より正式に提供開始する。価格はすべてオープン。

■SOBA プロジェクト：業界初、プラグイン可能なセミナー配信ソフトウェア クラウドサービス「SOBA LIVE for Seminar」の提供開始

(11月26日)

株式会社 SOBA プロジェクト (<http://www.soba-project.com/>) (京都市下京区) は、オンラインセミナーのライブ配信や録画配信をするソフトウェア「SOBA LIVE for Seminar」(ソーバ・ライブ・フォー・セミナー)を開発、システムベンダーや開発者向けにクラウドサービスとして11月30日に提供を開始する。オンラインセミナーのライブ配信機能のプラグイン提供は「SOBA LIVE for セミナー」が業界初という。

SOBA LIVE for Seminar は、プラグインとしてウェブサイトやシステムなどにセミナーのライブ配信と録画

配信の機能を組み込むことができるため、個別開発の必要はなく、他のプラグイン同様にライブ配信機能の拡張を行うことができる。

オンラインスクールのウェブサイト、グループウェア、社内 SNS でのセミナー、企業ウェブサイトでの講演や株主公開のライブ配信などさまざまな用途に利用できる。一例として同社によると、大学通信教育を行う八洲学園大学(神奈川県横浜市)の公開講座ウェブサイト採用されているという。

映像、ホワイトボード、資料アップロード、録画などオンラインセミナーに必要な機能をそろえており、数人から最大 1000 人が同時に視聴できるライブ配信が行える。加えて、録画映像のオンデマンド配信に対応し、オリジナル映像教材の制作にも活用できる。

初期費用 0 円、1ID 1,000 円/月額(同時接続 150 名・録画容量 10GB)。オプションとして、同時接続+25 ID 毎に+20,000 円/月額、録画+10GB ごとに+10,000 円/月額。

提供形態は、プラグイン単体またはライブ配信機能を持つシステムを提供するといった形になる。SOBA プロジェクトとしては、システムベンダーや開発者のほか、グループウェアといったシステム導入企業や教育機関などへ販売していくとしている。初年度販売目標は 5,000 万円。

■サムライズ:アドビシステムズ社 Web 会議システムの機能強化版「Adobe Connect9.5」をリリース

(11月13日)

株式会社サムライズ (<http://www.samuraiz.co.jp/>) (東京都品川区) は、アドビシステムズ社製 Web 会議システムの機能強化版「Adobe Connect 9.5」を11月13日にリリースした。

アドビシステムズ社の Web 会議システムは、ユーザのインストールの必要がなく、インターネット環境が

あればすぐに利用可能。「ミーティング」「トレーニング」「ウェビナー」の機能を備えており、グローバル企業や米国陸軍を含む政府機関に選ばれ、世界で広く利用されているという。

今回発表された機能強化のポイントは以下のとおり。

(1)MP4 ファイル形式の保存が可能:Adobe Connect は PC やモバイル環境、ブルーレイレコーダーなど多くの環境で再生可能な MP4 ファイル形式の保存が可能になった。これまで録画をオフラインで視聴するには FLV ファイル形式を再生できるプレーヤーが必要だった。また、Flash Player を搭載していないモバイル環境では視聴ができなかった。

(2)高機能ビデオポッドの FilmStrip モード改良による帯域削減と PC への負荷軽減: FilmStrip モードは参加者が複数の場合にそれぞれのウェブカメラの映像を表示させ、メインあるいはアクティブな発言者の映像を大きく見せたい場合に有効な機能。今回の強化により、視聴者に見えていないライブビデオのストリーミングを自動的に停止できるようになり、帯域削減と PC への負荷が軽減され、より多くのユーザと同時に会議を行うことが可能。



FilmStrip モードの改良 (サムライズ)

(3)仮想教室ライセンスでの HTML5 対応:「Adobe Presenter」と「Adobe Presenter」で作成された HTML5 形式の e-learning コンテンツも Adobe Connect 上で視聴 (アドインを利用) できるようになり、HTML5 対応で Flash を再生できない環境でもコンテンツを視聴できるようになった。なお、将来的には Web 会議ライセンス、ウェビナーライセンスも HTML5 対応を順次

行っていく予定となっている。

(4) iOS9 対応: Android/iOS で利用できるアプリケーション「Adobe Connect Mobile」が 2.4 へバージョンアップ。iOS9 対応のほか画面デザインも変更された。

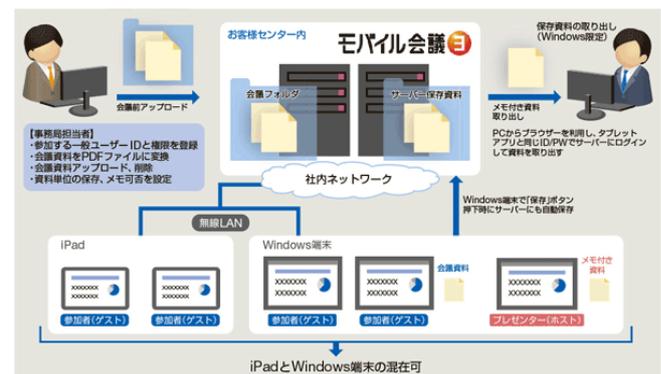
■NRI ネットコム:Windows で使えるペーパーレス会議システム「モバイル会議 3」を販売開始

(11月19日)

NRI ネットコム株式会社 (<http://www.nri-net.com/>) (東京都港区) は、Windows パソコンやタブレットをクライアントとして利用できるペーパーレス会議システム「モバイル会議 3」の販売を開始する。製品出荷は 12 月初旬から。

NRI ネットコムは、2010 年に国内で初めて、企業向け iPad 会議システム「モバイル会議」を発売し、とりわけ経営会議や取締役会向けに多数の納入実績がある。

モバイル会議では、出席を許可された参加者が各自の端末から仮想の会議室にログインするとそれぞれの端末に会議資料が表示され、議長の議事進行に沿って画面が展開し、全参加者が同じ画面を見ながら会議を行えるようになっている。



モバイル会議 3 (NRI ネットコム)

新製品であるモバイル会議 3 では、iPad 版「モバイル会議 II」の使い勝手と機能を Windows 環境で実現するとともに、会議参加者が画面上でメモ書きした資料をセキュリティを高く保ちつつ取り出す機能 (「保存

ファイル取り出し機能」に対応した。加えて、モバイル会議Ⅱとの混在利用も可能。

モバイル会議Ⅲは、「オールインワンタイプ」、「組み込みタイプ」、「クラウドサービス」の3タイプで提供することが可能となっている。販売価格は、オールインワンタイプで最小構成140万円(消費税等別)から。年間保守費は18万円(消費税等別)からとなっている。

※モバイル会議Ⅱ発表(定期レポート:2014年3月15日号掲載)

■SKY-NETWORK: スマートテレビからテレビ電話で視聴者が健康相談、患者の顔色や病状を映像でよりわかりやすくつたえられよう機能強化

SKY-NETWORK 株式会社 (<http://sky-network.jp/>) (静岡市清水区) は、同社の都市型広域 Web テレビ放送クラウドサービス「SKYTV-COMMUNITY」の中で提供されている、モバイル端末からテレビ電話で診療を受けられる「遠隔医療」をより円滑に行えるための機能強化を行った。

SKYTV-COMMUNITY は、自治体などで導入されている広域防災放送システムの Web 版。CATV のように自主制作放送をスマートフォンやタブレットに向けて配信することができるもの。この度、標準実装しているテレビ電話のストリーミング映像を、患者の顔色や病状を映像でよりわかりやすく相手に伝えられるよう機能を強化した。そして、独自 ICT (Trinity-ICT) 機能強化版として11月25日にリリースした。

サービス料金は月額45,000円からとなっている。

ビジネス動向-国内

■メディアプラス: Pexip 社 External Policy Server に関するアジア初の公式パートナーに認定される

(11月25日)

株式会社メディアプラス (<http://www.mediaplus.co.jp/>) (東京都千代田区) は、販売代理店業務を行っている Pexip 社 (ノルウェー) のビデオ会議プラットフォーム「Pexip Infinity」について、アジア初の、「External Policy Server」テクノロジー公式パートナーに認定された。

External Policy Server は、高度なコール制御のための API 技術。Pexip Infinity をプラットフォーム (VMR) として使用するビデオ会議において、社外からアクセスした場合や特定のビデオツールを使ってアクセスした場合など、さまざまな条件に対して高度なコールポリシーを設定することができる。

この API を使って認定パートナーがプログラムを作成することにより、より企業専用にカスタマイズされたビデオプラットフォームを構築できるとしている。

■丸紅情報システムズ: Vidyo 社と国内販売代理店契約を締結、プロダクト販売にとどまらずソリューションやクラウドまで提供

(11月25日)

丸紅情報システムズ株式会社 (<http://www.marubeni-sys.com/>) (東京都渋谷区) は、ビデオ会議システムを開発・販売する Vidyo 社 (米国・ニュージャージー州) と国内販売代理店契約を締結したと発表。

Vidyo ビデオ会議システム製品の取り扱いを開始するとともに、独自サービス「Vidyo クラウド」も提供開始する。Vidyo クラウドは、丸紅グループのデータセンターに収容した Vidyo ビデオ会議をマルチテナン

ト型で提供するもの。

Vidyo は世界 3,000 社以上の企業に導入実績のあるビデオ会議システム。中でも米国統合医療ネットワークの 36% で遠隔医療に採用されるなど医療業界において高い評価を受けている。専用ネットワークや高性能なハードウェアを用意する必要がないことから、従来のビデオ会議システムと比べ導入コストを抑えることが可能という。

技術的な強みとしては、利用端末・ネットワーク環境に合わせ動的に品質を最適化し端末ごとに遅延なく映像を配信することが可能な、独自技術「Adaptive Video Layering」(特許取得済み) や、それぞれの端末がつながるネットワーク環境を常に把握して映像品質を動的に最適化する、トランスコーディングを行わない分散型アーキテクチャ「VidyoRouter」に特長がある。VidyoRouter はアプライアンスや仮想環境に対応している。

加えて、Vidyo は、ウェブサイトやモバイルアプリ・業務システムと連携するための API を公開しており、組み込みや連携が可能となっている。

丸紅情報システムズとしては、ソリューションプロバイダーとしての強みを生かし、プロダクト販売にとどまらずソリューションとして Vidyo を提供している考えだ。その中で、一般企業のほか、遠隔医療に取り組む医療機関・大学病院などへ Vidyo を販売していく。今後、3 年間に 15 億円の売り上げを目指す。

■沖電気工業とみずほ銀行：窓口サービス拡大ソリューション「ビデオテラーシステム」の実証実験開始

(11月16日)

沖電気工業株式会社(<http://www.oki.com/jp/>) (東京都港区) と株式会社みずほ銀行(<http://www.mizuhobank.co.jp/>) (東京都千代田区) は、11月16日より、窓口サービス拡大ソリューション

「ビデオテラーシステム」の実証実験を開始する。



ビデオテラーマシン (沖電気工業)

このビデオテラーシステム (VTS) は、沖電気工業が提唱している、顧客経験価値や満足度を最大化する「統合 CRM ソリューション」のひとつで、金融機関の新たなチャンネルを創出するシステム。

海外の金融機関において、店舗窓口に代わるチャンネルとしてテレプレゼンスを活用したビデオシステムの導入が進んでいることや、国内の金融機関においても顧客のニーズが多様化しており、今回、VTS の実証実験を開始することとなった。

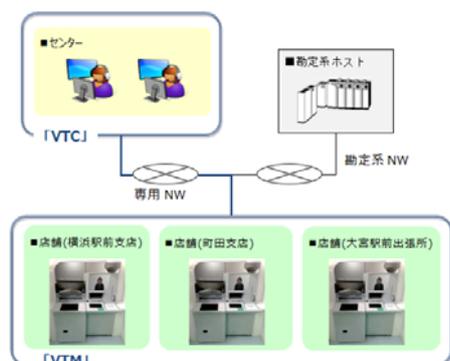
VTS は、金融機関を利用する顧客が操作する「ビデオテラーマシン」(VTM) と、遠隔地でオペレータが顧客からの問い合わせに対応する「ビデオテラーセンター」(VTC) から構成されるシステム。VTM は、テレビ電話の機能を備えた本邦初の ATM になるという。

みずほ銀行の顧客は、必要に応じて VTC のオペレータのサポートを受けながら VTM を操作することで、口座開設、住所変更等の各種変更、カード・通帳の紛失・再発行、みずほマイレージクラブ申込、みずほダイレクト申込などが行えるようになっている。

また、平日 13 時から 20 時までのサービス提供時間で、店舗の営業時間外でも利用できるようになっている。

本実証実験において VTM を設置するのは、みずほ銀行の横浜駅前支店、町田支店、大宮駅前出張所の 3

拠点の ATM コーナー。同行は、VTM を「テレビカウンター」の名称で使用する。



ビデオテラーマシン システム構成 (沖電気工業)

みずほ銀行は、本実証実験の結果を踏まえ、2016年度以降 VTS の本格的な活用を検討する。また、沖電気工業は早期に VTS の商品化を目指すとともに、金融機関および金融機関の顧客向けの統合 CRM ソリューションのラインナップを拡充していく。

ビジネス動向-海外

■ThinkingPhones 社:クラウド型ビデオ会議サービスの Fuze 社の買収を発表

(11月16日)

ThinkingPhones 社 (<https://thinkingphones.com/>) (米国・マサチューセッツ州) は、クラウド型のビデオ会議サービスを提供する Fuze 社 (<https://www.fuze.com/>) (米国・カリフォルニア州) の買収を発表した。金額は非公表。

ThinkingPhones 社は UcaaS (ユニファイドコミュニケーション・アズ・ア・サービス) をグローバルに提供している。ボストン、ニューヨーク、オタワ、ロンドン、アムステルダム、ポルトガル、チューリッヒ、コペンハーゲンにオフィスがある。

Fuze 社は、サンフランシスコに本社を置き、パロアルトとシアトルに拠点がある。同社の HD 対応のクラウドサービスは、スターバックスやメイシーズなどを含む 10 万社以上の企業から利用されている。ユーザ

は 650 万人という。

ThinkingPhones 社としては今回の買収は 2014 年以来 3 社目の買収となる。ビジネスコミュニケーション向けのマルチプラットフォーム製品を提供する Contactive 社 (2015 年 2 月)、中堅企業 (medium sized business) 向けのクラウド・マネージドサービスを提供する Whaleback 社 (2014 年 8 月) の買収をそれぞれ行っている。今回も含めこれらの買収は企業向けコミュニケーションサービスを統合したソリューションを提供するという同社のビジョンへの“投資”という。

今後 ThinkingPhones 社のサービスと Fuze 社のサービスを 2016 年には統合したサービスとして提供開始 (General Availability) するとしている。

これらの買収によって、同社はグローバル拡大戦略を推進する。2015 年の上半期の純売上高が 2014 年同期に対して 150%増加したという。また、拠点が増え、社員数が海外も含め 550 名となる。

■シスコシステムズ社: Acano 社買収の意向を発表、買収金額は 7 億ドル

(米:11月20日、日本:11月25日)

シスコシステムズ社 (<http://www.cisco.com/>) (米国・カリフォルニア州) は、Acano 社 (<https://www.acano.com/>) (イギリス・ロンドン) を 7 億ドルで買収する意向を発表した。

Acano 社は、コラボレーションインフラストラクチャとカンファレンスソフトウェアを提供する企業 (2012 年設立)。ゲートウェイとビデオ/音声ブリッジ技術により、クラウドとハイブリッドの両方の環境でマルチベンダーのビデオシステムを接続できるところに特長がある。

シスコシステムズ社によると、コラボレーション分野では大規模な市場転換が進行しているという。過去にない規模の拡張性でベンダーを問わずにあらゆるシステムを接続したり、音声とビデオの品質を損なうこ

となく数万単位のユーザと会議室を接続するソリューションの提供が求められている。そういった中で、相互運用性や拡張性に強みを持つ Acano 社の技術はシスコのコラボレーションソリューションをさらに拡張するとしている。

シスコシステムズ社と Acano 社が力を合わせることで、コラボレーション分野で拡大している市場機会を取り込み、オープンかつ相互運用可能なソリューションをクラウドまたはハイブリッドモデルで提供できるようになる。

Acano 社のチームは、シニアバイスプレジデント兼ジェネラルマネージャである Rowan Trollope 氏が率いるシスコのコラボレーション テクノロジー グループに加わる予定。

契約条件により、シスコシステムズ社は Acano 社へ 7 億ドルの現金と債権の引き受け、さらに、残留を条件とする従業員のインセンティブを支払う。

なお、今回の買収は規制当局の審査をはじめとする慣習的な買収完了条件に従い、シスコシステムズ社の 2016 年会計年度第 3 四半期中に完了する見通し。

【参考リンク】

Cisco blog : Cisco Announces Intent to Acquire Acano
<http://blogs.cisco.com/news/cisco-collaboration-news>

Wainhouse Research : Wainhouse Research view on Cisco intent to acquire Acano (映像 : 7 分 14 秒)
https://www.youtube.com/watch?v=OAW_9MNuPZY

Fortune : Why Cisco is Spending Millions To Upgrade Video Conferencing
<http://fortune.com/2015/11/20/cisco-millions-acano-video-conferencing/>

導入・利用動向-国内

■近畿大学：附属校推薦入試で Skype を用いた遠隔面接を試験導入、受験生の旅費等の負担軽減が目的

(11 月 16 日)

近畿大学 (<http://www.kindai.ac.jp/>) (大阪府東大阪市) は、11 月 21 日、東大阪キャンパスにて附属校の生徒を対象とした推薦入学を実施し、その中で、マイクロソフト社の「Skype」による遠隔面接を試験導入する。受験生の移動時間・交通費・宿泊費などの負担削減を目的としている。

近畿大学では、附属高等学校、工業高等専門学校、準附属校を含む計 10 校を対象に、推薦入学試験を実施している。付属校は大阪だけでなく、和歌山県、広島県、福岡県など関西、中国、九州の広範囲にあり、これまでは各校の生徒を東大阪キャンパスに集めて面接試験を実施していた。

平成 28 年度の附属推薦入試では、総合社会学部総合社会学科環境・まちづくり系専攻を志望する生徒を対象として、オープンキャンパスなどで東大阪キャンパスを実際に訪れたことがあることを条件に、Skype を用いた遠隔面接を試験導入する。

対象となる受験生は 6 人だが、受験生の要望に応えた新たな入試改革として、来年度以降、対象学部、学科を拡大する方向で検討している。

PR

>株式会社日立ハイテクノロジーズ
<http://cnar.jp/Hitachi-HighTech3.htm>

セミナー・展示会情報

<国内>

■Lifesize クラウド アップデートセミナー

日時：12月9日(水)・10日(木)・11日(金)

午前の部：10:00～/午後の部：15:00～

会場：VTV ジャパン 東京本社・大阪オフィス

主催：VTV ジャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.vtv.co.jp/seminar/1512vtv/>

■10月29日(木)から合計4回【無料・先着順】

テレビ会議システム「V-CUBE Box」を実際に体験できるセミナーを開催

日時：12月9日(水) 14:00～15:30

会場：ブイキューブ本社(東京都目黒区)

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：http://jp.vcube.com/event/seminar/20151021_1400.html

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

この定期レポートの発行は月2回ですが、CNA レポート・ジャパンでは、そのほか業界の動きに関連した国内外の情報を日々配信・共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック(遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter(CNAレポート・ジャパン)

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト(dtc-forum)

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2015年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

<<編集後記>>

今年の定期レポート発行は残すところ12月15日号のみです。来年は1月15日号から発行開始します。(橋本啓介)

CNAレポート・ジャパン 2015年11月30日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp